

新しい年を迎えて

日高農業改良普及センター所長 葛西育子



新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆様には、新たな年をご家族で健やかに迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

また、日頃より普及センターの活動に際しまして、深いご理解と温かいご支援を賜り、心より感謝とお礼申し上げます。

平成から令和に元号が変わり、昨年は震災復興に加え、連続する台風・低気圧などの自然災害が頻発する年となりました。改めまして被災された皆様方には、心よりお見舞い申し上げます。

幸い日高では、大きな災害もなく作物全般に平年並となり、稔りの秋を迎えることができました。これもひとえに皆様方の日々の営農に対する努力の賜と敬意を表

するところです。

さて、農耕期間の気象経過を振り返りますと、積算気温は3000度を超え平年対比105%で、どの月も平年より高く、特に5月、10月が高くなりました。しかし一方で、6月4中旬、7月2中旬に極端に気温が下がる日もありました。

日照時間は、7月に平年対比77%と下回ったものの、積算では117%と平年を上回りました。降水量は、8月、10月に集中的に降雨があつたものの、その他の月は降水量が少なく経過したことから平年対比98%となりました。総じて昨年の気象は、積算気温・日照時間が平年を上回る高温多照と好天に恵まれた年でした。

品目別の作柄を見ますと、水稲は春先の好天により出芽も含め育苗中の生育は良好で、移植作業は平年並に終了し、活着も順調で初期生育も良好でした。その後、7月の低温・日照不足が前歴期間・冷害危険期と一部重なりましたが開花期間の高温で稔実障害を回避できました。穂数は少なく出穂期は平年並となりました。7月下旬

8月上旬の出穂期間は高温で推移しましたが、それ以降は日照不足や、やや気温の低い日も続き、籾の黄化は緩慢な状態が続きました。9月に入り極端な高温と少雨となり急速に黄化が進み、成熟期も収穫期も平年並となりました。収量は一穂籾数も稔実歩合も多かつたことから作況指数は106の良となりましたが、地域としてはそこまでの実感がなく感じています。品質は屑米歩合が少なく外観品質も良好でしたが、精米タンパク含有率がやや高めとなりました。

園芸品目の主力作物であるミニトマトは、春先の好天で生育は良好に推移し、出荷は平年より2日早くスタートしました。生育中は大きな障害の発生が見られず、出荷量は前年度を上回る結果となりました。

肉用牛は、黒毛和種素牛の出荷頭数、一頭当たりの平均価格も雌ともに前年並程度で、堅調に推移しています。

軽種馬においては、北海道市場で売却総額11.8億円と過去最高を更新しました。更にホッカイドウ競馬での馬券販売額も33.0億円と過去最高を更新し、9年連続前年度を上回りました。8割を占めるインターネット販売も好調で

した。酪農では、生乳生産量が減少傾向にありますが、乳価が100円台と高く推移しています。

1番牧草は、生育も収穫作業も平年並で終了しました。

農業を取り巻く情勢については、10月8日の日米貿易協定により関税削減等の影響で価格低下による本道農畜産物の生産額減少が23.5億〜37.1億円と試算され、農業・農村を巡る情勢は厳しさを増しています。

このような状況下、政策による戦略の検討はもろんですが、一人一人が農業経営をしつかりと見定め、経営方針と目標に向けて果敢に挑戦して取り組むことが重要と考えます。ピンチはチャンスであり、必ずや道は拓けると信じています。日高地域の優位性や潜在力を最大限に発揮し、次世代へつなげる地域をめざし、普及センターとして共に行き届ける活動を進めてまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

新しいことが生み出されると言う「子年」の本年が、皆様にとりましてご健勝で豊穡の年となりますようご祈念申し上げます。新年にあたってのご挨拶といたします。